

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091
【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html>

2014.12
第20号



Temporary Exhibition



国分寺市制施行 50 周年記念事業 特別展示事業

～国分寺市の今昔～

- 開館時間 午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 45 分まで）
- 期 間 後期『中世～原始』（秋季展示）
平成 26 年 10 月 10 日（金）～平成 27 年 3 月 1 日（日）
- 会 場 武蔵国分寺跡資料館
- 入 館 料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要
- 休館日 月曜日（祝・振替休日の場合は直後の平日）

国分寺市制施行 50 周年を記念して開催する特別展示は 10 月 5 日（日）に前期展示『近世・近現代』が終了し、10 月 10 日（金）より後期展示『原始・古代・中世』が始まりました。いよいよ国分寺市の原点にせまります。

市名の由来である武蔵国分寺の存在に隠れがちですが、実は国分寺市内を流れる野川流域は旧石器、縄文の遺跡の宝庫として知られています。市内の多摩蘭坂遺跡からは 3 万年以上前の旧石器「打製石斧」が出土し、恋ヶ窪遺跡からは縄文中期の住居跡が 140 軒以上も出土しています。しかし弥生時代の集落跡は見つかっていません。人々は時代ごとに生活しやすい場所を求め、時には移動してしまうからです。つまり原始時代の人々も広い行動範囲を持ち、外の世界との交流を持っていました。

そこで後期展示では、国分寺市の歴史の礎になるものとして「湧水のある地形」「人々が行き交う道」に注目

しました。奈良時代に武蔵国分寺を建立する地として選ばれた背景にも、多くの人々の生活を支えられる豊富な湧水と、武蔵国府があった現在の府中市と平城京をつなぐ古代官道「東山道武蔵路」の存在があります。そして中世には、武蔵国分尼寺跡の上に鎌倉街道と伝承されている鎌倉と北関東をつなぐ道が通り、この道を通して中国の青磁や天目茶碗がもたらされました。

今回は市内出土の資料と共に、その資料と関連が深い文化財や遺跡の写真パネルを並べて展示しています。それらを見比べつつ、土に埋まった時間をさかのぼる旅にご案内いたします。

—後期展示構成—

【中世】 鎌倉・室町時代の国分寺 / 新田義貞と国分寺 / 国分寺市の中世寺院と信仰 / 出土陶磁器にみる中世の流通 / 伝鎌倉街道 / 恋ヶ窪の伝説と畠山重忠

【古代】 東山道武蔵路と古代官道 / 武蔵国分寺の伽藍 / 国分寺の運営と僧尼 / 国分寺と庶民 / 国分寺を彩る荘厳具と金工品 / 奈良・平安時代の高級陶磁器 / 国分寺の再建 / 武蔵国分寺の瓦 / 国分寺の背景思想 / 聖武天皇と光明皇后 / 国・郡・郷 / 銅造観世音菩薩立像の造形

【原始】 国分寺市の弥生時代と古墳時代 / 恋ヶ窪の縄文集落 / 勝坂式土器と縄文中期 / 縄文時代の住居の変遷 / 多摩蘭坂遺跡と熊ノ郷遺跡 / 石器の形と黒曜石 / 古多摩川が造った国分寺崖線



【原始】（前）多摩蘭坂遺跡出土の打製石斧（奥）縄文土器ほか



【古代】（前）国分寺跡出土品のルーツと（左奥）東山道武蔵路

様々な祈りを込めた懸守—ある国分寺市民のお守り—

平成 26 年度に行った国分寺市内にある民家の調査で、懸守と呼ばれる信仰品が見つかりました。懸守とはお守りの一種で、様々な不安要素から守ってもらうため、その分だけのお守りを筒状の袋に入れ、胸や腰に下げます。普段の生活の中で、また旅中のときに体に身に付け、女性や子どもの使用が多かったといわれています。江戸時代の絵画には風呂の際にも着用しているものも見受けられ、肌身離さず信仰していたようです。

この懸守自体が使用された年代はわかりませんが、御当主の親の世代以前に使用されたと伝えられています。宮司により本資料をお貸しいただき、持ち主の方の御許可を得てから、筒を開けて中を調べさせていただきました。

ミミズク人形 鰯はミミズクと読みます。約 2 センチ四方ほどの小さな箱中には陶器製のミミズク人形が入っていました。これは疱瘡に対する祈願品だと考えられます。ミミズクに祈ると疱瘡にかからないと信じられた動物だからです。疱瘡とは今でいう天然痘ですが、この病気にかかると命を落とすこともあり、大変恐れられました。特に子どもが罹りやすく、昔は医学による対処法がなかったので、神仏にお祈りして治す方法しかありませんでした。豊島区にある雑司が谷の鬼子母神に付随した信仰に、少女が病気の母親を助けるため、ススキを材料としたミミズクの人形（ススキミミズク）を売り、そのお金で薬を買ったという昔話があります。話はそこで終わりなのですが、ミミズクの形をした玩具がどうしてそのように市中の人々によって売れたのか、このような理

由から考えやすくなります。購入していったのは、多分、我が子愛する親だったことでしょう。この陶器製のミミズクを手に入れた方も、同じような気持ちで懸守の中に包んだと思います。

月水之大事 月水とは女性の月経のことで、胎児に関するお守りです。このことからこの懸守は女性によって身につけられていたことがわかります。紙に刷られた文字には次のようなことが書かれています。

「月水之大事 極重悪人 無他方便 唯彌彌陀 得生極樂 五百川清土流ハアラハアレ 我ハ濁レル水ニ宿ラン 今月今日 善光寺御内陣」

このお守りの意味については即断はできませんが、考えられることは二つあります。一つは自分の子どもが無事に生まれてくることに対するお祈り、もう一つは、何らかの理由でこの世に生を受けられなかった胎児や子どもに対して極楽往生を祈るものです。

ウスサマ（烏枢沙摩）明王 札に描かれているのは、密教である天台宗で信仰されている明王様です。烏枢沙摩明王は、炎に対する信仰があり、そこから不浄な場所である便所を清浄なものへと変えてしまうことができる神様とされています。また、女性が子をお腹の中に宿したとき、男児が生まれてくることを祈る神様とも考えられています。しかし、この神様にもこのほかに様々なご利益があるので、実際にどのような目的で札を持っていたのかはわかりません。この札の中にはもう一つの札が入っていました。札の表には「毘（キリーク）」の阿弥陀



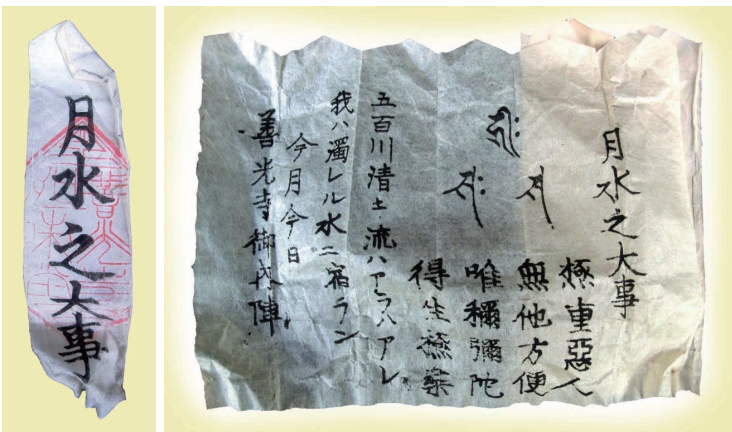
懸守（筒の長径幅は 38 センチメートル）



ミミズク人形



ウスサマ（烏枢沙摩）明王



月水之大事



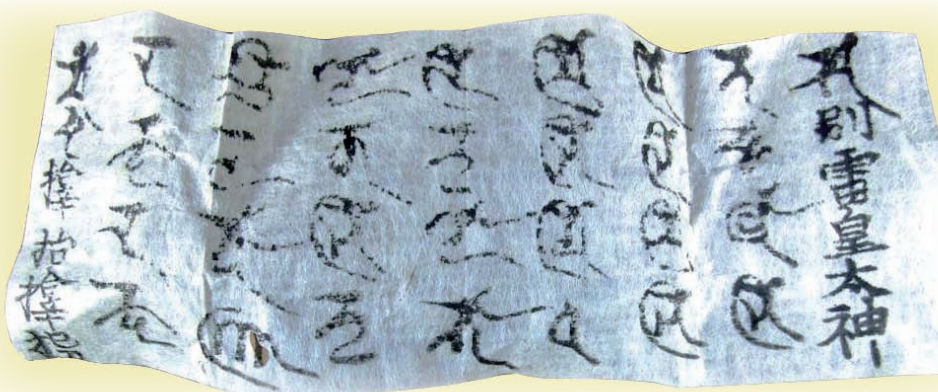
災厄除 御守 大師河原



地震之御守 布施氏



雷除守



如来を表す梵字があり、封を解くと、中には地藏菩薩の絵と「南無阿弥陀仏」の文字が書かれています。ナムナムダブツの唱え言葉は、いわずと知れた極楽往生を求めるお祈りです。

災厄除 御守 大師河原 大師河原の大師とは弘法大師のことで、このお守りは真言宗の寺で配布されたものです。弘法大師にお関するお寺は、国分寺市の周辺では市内西元町に位置する現在の国分寺、その他に有名なのは川崎大師の通称がある平間寺（神奈川県川崎市）や西新井大師の通称がある總持寺（東京都足立区）など、いくつかあります。

人生の節目に起こるわが身の厄災、これらには目には見えない様々な不安があり、その不安を取り除くための防ぎ・お守りの類いを古くから必要としましたし、人が成長していくうえでこれからも欠かせないものとなるのだと思います。

地震之御守 布施氏 我々の日常生活には自然災害という災いがありますが、その災害は全てを防げるわけではありません。平成23年に起こった東日本大地震では、津波で多くの犠牲者を出した災害として記憶に新しい出来事です。近世頃には地震は地中に棲む鯨が引き起こすものと考え、いかに鯨を取り押さえるかに工夫を凝らしましたが、各個人ではお守りで地震災害から身を守ろうと考えました。科学が発達した現代においても、前もって地震予知ができないのが現状です。

雷除守 お守りの表に、葵の紋や寺の山門名称の文字がありますが、どこの寺のものかははっきりとしたことはわかりません。お守りの内部にある「別雷皇太神」とは、雷に関する神様で、金村別雷神社（茨城県つくば市）などが近辺では有名ですが、少なくとも関東中に広まっている信仰です。雷様に対する祈りは、雷が落ちることを防ぐことはもちろん、降雨の量を左右する神でもあるので、農家にとっては大切な神様です。国分寺に室町時代頃から伝わる縁起の一部には雷と真姿の池に関して次のようなことが書かれています。国分寺の住職である僧が、浦嶋と自ら名乗る弁天様のお使いに「真姿の池にある雷王石に書かれた文字を札に写して世間の人々に配布すれば、人々は雷災と様々な災いを除けることができる」と言われたのでそのようにすると、実際に災いに合うことがなくなったということです。この伝承の虚実はともかく、縁起の話の内容からは地元の人々が当時何を求めているかが理解でき、そしてそれはこの雷除守のように現代まで続く祈りの形なのです。

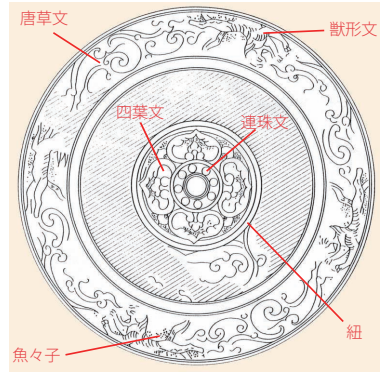
いつごろからこのような懸守を人々が使用するようになったかについては不明ですが、様々な神々の守護を期待し、札や人形を筒袋の中に込めた当時の人の思いを知ることができます。また、それはけっして過去のものではなく、現在でも寺社仏閣で配布されている袋状の「お守り」として風習が続いています。

(米村 創)

この唐草四獣文銅蓋は、武蔵国分寺の寺院地内の鍛冶工房と思われる竪穴住居跡から、出土しました。口径は16cmです。

もとは金属製の椀あるいは数個の椀を入れた入れ子状食器などの蓋と考えられますが、出土したのはこの蓋だけでした。出土した竪穴住居は火災により焼失した住居で、この蓋も火熱により一部が溶けて歪んでいます。もとは半球の形をしていたと思われますが、押しつぶされたためか、出土されたものは平たい形になっています。また、保存処理の過程で線刻文様があることがわかりました。その文様は紐の内側に連珠文と四葉文があり、紐の外周には四つの獣形文と唐草文がめぐらされ、獣形文と唐草文付近には、魚々子と呼ばれる小さな粒を刻んだ細工が施されていました。

このような奈良時代の銅製品は法隆寺や東大寺の正倉院などに残されています。文様の類似した製品は正倉院所蔵の佐波理蓋第二号のみで、文様が共通している点から、朝鮮半島で製作された可能性も指摘されています。こうした製品は、地方への伝播を考えるうえで貴重なものです。



銅蓋表面部の文様（トレース再現）



保存処理された銅蓋

※なお、本資料は神奈川県立歴史博物館に貸し出し、『平成二十六年度かながわの遺跡展 発掘された御仏一神奈川の古代・中世の仏教信仰一』（平成26年12月6日（土）～平成27年1月18日（日））にて展示されます。

Events

歴史文化フォーラム

「平安時代における祈りの空間 武蔵国分寺」



【日時】平成27年2月15日（日） 午後1時～午後5時
（開場 12時30分）

【会場】国分寺市立いずみホール

【定員】300名（定員となり次第、締め切らせていただきます）。

【参加費】無料

【申込方法】下記のいずれかの方法で、お名前（よみがな）、電話番号、ご住所（市区町村名のみ）をご連絡ください。

【お電話】ふるさと文化財課 ☎042-300-0073(平日)

【メール】bunkazai@city.kokubunji.tokyo.jp

【窓口】〒185-0023 国分寺市西元町1-13-10

武蔵国分寺跡資料館2階 ふるさと文化財課

問題提起 佐藤 信 東京大学大学院教授（古代史）
「平安時代の東国仏教と国分寺」

基調報告 国分寺市教育委員会職員
「近年の僧寺伽藍の発掘調査成果」

基調講演 藤井恵介 東京大学大学院教授（建築史）
「平安時代の仏堂空間～金堂・講堂の性格の変質～」

基調講演 副島弘道 大正大学教授（彫刻史）
「武蔵国分寺と平安時代の仏像」

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

※駐車場はありません

【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 ◎JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】◎国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分
◎国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）

■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日から1月3日まで）
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）

一般……………100円（年間パスポート1,000円）
中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
 - 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
 - その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



モバイルホームページ
QRコード